

諦 崇 寺 報

諦 崇 寺 発 行
 藤 井 崇 文 編 集
 〒631-0065
 奈 良 市 鳥 見 町
 2丁 目 28-10
 0742 (37) 2569
 taisouji.jp



慢心させるもんか！

フリーク・ウアーミューレン著
 『ヤバい経営学』（東洋経済新報社）
 二〇一三）を読みました。書名は
 仰々しいものの「思い込み」
 をひっくり返す意外な真実・事実
 が次々と提示されて、とても面白
 かったです。

その中で紹介された「選択バイ
 アス」という言葉に興味を惹かれ
 ました。経営者は往々にして、会
 社の種々のデータから見たいもの
 を見て、着手し易いものから着手
 するべく、判断を下してしまっ
 てしまうのです。

私にも思い当たる節があります。
 学生の頃、テストが近付くと部屋
 の片付けを始めまして、そんな
 経験がよくありました。本来なら
 勉強する事が第一の善なのに、
 「勉強するにも環境は大事だから。」
 と自分なりの理屈を付けて、結局
 は勉強する事から逃げてしまっ
 ていたのです。

私達は知らず知らず、或いは面
 倒を避けてしまう潜在意識によっ
 て、問題解決とは程遠いところを
 迷ってしまふ事がよくあるのでは
 ないでしょうか。

曹洞宗をお聞きになられた道
 元禪師さまは、著作『正法眼蔵』
 の「現成公案」において次のよ
 うに記されています。

「口をばくして方法を修證す
 るを迷ます。万法すすみて自己を
 修證するはたのほなり。」

自分の見たがよきに見て、聞き
 たがよきに聞いて、理解したいよ
 うに理解すると迷ひ苦しみの世界
 に落ちてしまいます。そこでほな
 く、仏さまの目をもちつて自分を
 見るようにすれば悟りのたのほなり。

さて皆さんは、大学受験予備校
 である東進ハイスクール、そのコ
 マーシャルで、「いつやるか。今

でしょ！」のフレーズが一躍有名
 になった林修先生をご存じです
 か？その林先生がテレビ番組に出
 演され、現代文の模擬授業をされ
 ていました。

林先生は生徒に読書の大切さを
 教えるため、林先生流の歴史小説
 の読み方を紹介されました。「皆
 さん、どうしても勝った方に興味
 が湧くでしょ。そこはあんまり見
 なくていい。だって勝つ時は、と
 んでもない偶然が起ったりする
 から。でもね、負ける側って意外
 と共通する点があるんですよ。」
 として、「敗因はだいたひ三つに
 絞られます。それは『情報不足・
 『思い込み』・『慢心』です。」と
 仰っておられました。

私はこれ聞いて先程の「情報
 バイアス」と言わんとする事が似
 ていると思ひ、中でも「慢心」と
 いう言葉から「安心」という言葉
 を思ひ起しました。

仏教用語でいう「安心」は「ア
 ンシン」と読み、意味は「仏さま
 の教えによって、心が安らぎを得
 る事」です。仏さまの目で見
 るのですから、私達の思ひがままた
 「見てくるように、見ていなく
 見えくるのに、見まうていなく
 なる。」を「聞くてくるやうに、
 聞いていなく、聞かされてくるの
 に聞くとしていなく。」であって
 はなりません。

あなたが私達の普段使っている
 「安心」は「ほごちかと言つて『慢
 心』の意味に近いのではなから
 つか、見なければいけな事柄
 対処しなければならな事柄があ
 るの「目を逸らして」安心した
 ことから「慢心」してしまいます。

かつて山形県・宝昌寺の住
 職の金原東英老師が「道元禪師
 のお言葉は、『安心なんてさせる
 もんかー』ですよ。」と仰られた
 事がありました。それを聞いた私
 は、「禅の厳しい精神ではあるも

の、聞く人に不安を与えてしま
 うのではないだろうか。」と感じ
 ました。ところが、永平寺の厳し
 い規律から離れ、諦崇寺の住職
 として独り勤めるようになる
 金原老師の言葉が段々と心に染
 み入るようになった。

金原老師が仰った時、「安心」
 を「アンシン」と読まれていたの
 を思い出して、「私達がよく使う
 意味での「安心」の振りをした
 「慢心」をしてはいけない。」と
 うお話だったのだと気がきました。

『修証義』の第二章に次のよう
 な箇所があります。

「正に知るべし。今生の我が身
 二つ無し、三つ無し。」

お寺の子として育った私は、春
 と秋のお彼岸会の法要で修証義
 をお唱えしていましたが、この部
 分を読む度に「なんで、こんな当
 たり前の事が書いてあるんかな。」
 と思っていました。

その疑問は永平寺での生活を終
 えても解けませんでしたが、最近
 になって少しずつ分かってきたよ
 うな気がします。

もう一度、改めて「今生の我が
 身とは何か？」を考えてみます。

私達は誰しもが生まれた時に、
 父と母から「とにかく元気に長生
 きして欲しい。」そして困った人が
 いたら助けてあげる、優しい人に
 なって欲しい。」と願われ、育て
 て頂きました。それが今ここに生
 きている「今生の我が身」です。

私は仏教とは親心だと考えてい
 ます。そういうと子供にとっては
 「そんな事、何度も言わなくても
 分かっているよ。うっとうしいなあ。」
 ですが、親からすれば、「本当に
 分かっているのよ。よく考えてよ。
 あなたの身体は二つ無いのよ。三
 つ無いのよ。たった、たった二つ
 だけなんですよ。」と力の限りに
 何度も何度も訴えたい、大切な事
 です。

私はこの二十一世紀の日本に仏
 教が残っているのは、とても幸運
 な事であると思つています。

紙の無い時代に文字を記して、
 道の無い時代にインドから日本へ
 と伝えてくださった、今の日本に
 仏教があるのは何故でしょうか？

大変な困難を乗り越えたのは、
 「五十年後、百年後の子々孫々が
 どうか困らないように、迷わない
 ように。」どうか失敗しないように。
 という先人たちの思い、願ひ…親
 心の連鎖があったからこそです。
 この厳然たる歴史の事実を軽ん
 じる事は出来ない筈です。

「愚者は経験に学び、賢者は歴
 史に学ぶ。」という言葉がありま
 す。私達はせつかく先祖さまが
 伝え、残して下さった仏教を生
 かさない手はありません。

私達は仏さまの教え、親心の連
 鎖に對峙して、真摯に耳を傾け、
 実践する事が求められています。
 そして本当の意味で親心に応える
 には、「五十年後、百年後の人々
 にどう繋いでいくか？」という視
 点も大切にする必要があります。

先祖さまの「どうか子や孫た
 ちが失敗の無いように過ごせるよ
 うに。慢心なんてさせるもんか。」
 という切実な願ひに手を合わせ、
 それに応えようと誓ひついで、日々
 心新たにします。これが信仰だと
 私は考えます。

あとがき

量子力学と仏教の関連性につ
 いて述べられる方があります。量
 子は波の性質と粒子の性質、両方
 を持っているのです…難しい！
 「私たちの『感覚』から生じる
 『常識』とはかけ離れた世界」と
 いう面では驚ひと初めますが、
 「異なる言葉（学問）の良いとこ
 取りで仏教を語る危うさ」には注
 意する必要があります。思ひました。
 諦崇寺のホームページが出来ま
 した。「お焼香の作法」や「お仏
 壇の飾り方」、お寺の掲示板に月
 替わりで飾っている切り絵などを
 掲載していきます。是非、ご覧くだ
 さい。